

| | | |
|--|---------------------------------|-----------------------------|
|  <h1>みせん</h1> | 瀬戸内海国立公園 宮島地区パーク ボランティアの会 | 第97号 発行日 令和6年9月1日 |
|--|---------------------------------|-----------------------------|

◇ 目 次 ◇

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| P-2 : 自主観察会(2)公募観察会(歴史)下見 | P-9: 環境省研修会(潮汐・潮流) |
| P-3 : 公募観察会①歴史 厳島八景(前半 4 箇所) | P-11: ミヤジマトンボ生息湿地海岸清掃作業 |
| P-7: 樹木名板維持管理作業 | P-13: 厳島神社前海浜清掃作業 |
| | P-14: 編集後記 |

「 カンザブロウノキ 」



ハイノキ科の常緑中高木で宮島ではよく見るが、県内では呉市内の神社や上蒲刈島などわずかに見られる。奇妙な名前だが、由来について牧野富太郎は不明であるとしている。「^{かみ}神さぶる」=「^{こうこう}神々しい」の古語からとの説があり、伊勢神宮の宮域にこの木が多く、白っぽい幹が特に目立つため神々しい雰囲気になっていることからだという。名前から神の島・宮島にふさわしい木の一つではないだろうか。白い小さな花に多数の雄しべが目立つ。真夏に宮島に行くことがなかったので、初めて見たが可愛い花である。撮影 2022 年 8 月 6 日、入浜池補足調査にて

参考: 深津正・小林義雄著 木の名の由来 東書選書. 牧野新日本植物図鑑. 広島県植物誌.
(写真・文 山本昌生)

自主観察会(2)

公募観察会(歴史)下見

巖島八景 (前半 4 箇所)

日時：6月1日(土) 9:00～12:00

場所：誓真釣井～要害山～有の浦～御笠の浜
～巖島神社入口～誓真大徳頌徳碑
～谷原

天候：晴れ

行事推進員：中道 増田 横路

参加者：青木 伊藤 岩崎 大西 小川
熊埜御堂 河野 末原 千日 兎谷
豊原 中丸 中道 穂井田 増田
舛田 村上(光) 森 山本(昌)
以上 19 名

6月8日に実施する公募観察会の下見を行いました。この巖島八景の観察会は初めてなので、コースと内容について、講師の中道会

員と増田会員による解説を聞きながら歩きました。トイレの場所、休憩する場所を確認し、観光客が多い場所もあるので、解説をするときに通行を妨げないような場所を考えたいとの意見が出ました。ちょうどお昼ごろに谷原で鹿の説明で終了し、集合写真を撮影しました。



有の浦の説明 (増田会員)



谷原での集合写真

(文：山本(昌) 写真：河野)

公募観察会①歴史

巖島八景（前半 4 箇所）

宮島地区パークボランティアと歩く巖島八景の今と昔

開催日時：6月8日（土）9:00～12:00

天候：晴れのち曇り

場所：誓真釣井～要害山～有の浦～御笠の浜
～巖島神社入口～誓真大徳頌徳碑
～谷原

天候：晴れ

行事推進員：中道 増田 横路

参加者：青木 伊藤 岩崎 小川 折出 末原
豊原 中丸 中道 穂井田 増田 舛田
元広 森 山本(昌) 以上 15名

環境省：山脇自然保護官 大高下 AR

公募一般参加者 20名

巖島八景の公募観察会は、初めての企画でしたが中国新聞に掲載していただいた効果は絶大で、定員をオーバーしキャンセル待ちもあったそうです。

受付後に、まず、山本部会長から「20人参加がありました。10人ずつに分かれています。1班は中道会員、2班は増田会員がご案内します。怪我の時は森会員に伝えてください。熱中症に気を付けてください。足元にも注意してください。」と挨拶がありました。

続いて、山脇保護官から「暑いですので、水分をとって歩いてください。」と挨拶がありました。最後に、末原会長から「当会は、24年前に設立しました。巖島八景の企画は初めてです。歴史を楽しんでいただければと思います。今日は八景のうち4つ、残りは秋にガイドします」と挨拶がありました。

誓真釣井の井戸の前で中道会員から誓真さんの説明があり、井戸の水が塩辛くないか飲む人もいました（写真1）。



写真1 誓真釣井の説明（中道会員）

要害山へ登り、宮島の町並みを一望し、江戸時代はほとんどが海で徐々に埋め立てが進んだことの説明がありました（写真2）。



写真2 要害山から海岸線の説明（増田会員）

次に有の浦へ向かいます。「有浦客船」は八景の一つです。棧橋付近から石鳥居の間の湾内は「有の浦」と呼ばれていました。そこには巖島神社への参拝船や交易船などが出入りしていたそうです。夕闇が迫る頃、提灯などの灯りが海面に映る景観が人々の気持ちを刺激したことから、「有浦客船」として選定されました。

増田会員は説明パネルでその様子を説明し、和歌を詠んでくれました（写真3）。



写真 3 有の浦の説明（増田会員）



写真 5 ヘレンケラーの灯籠の説明（中道会員）

ここで末原会長から防潮扉について、台風などの非常時には動力で防潮扉が立ち上がり、海水が商店街に入ることを防止することを写真提示しながら説明がありました（写真4）。



写真 4 防潮扉の説明（末原会長）

次に、御笠浜に向かいます。「御笠濱暮雪」は八景の一つです。石鳥居から神社入口に達するまでの参道は御笠浜と呼ばれています。御笠浜の松林や大鳥居に雪が降った時の景色は大変美しいそうです。このため、八景に選定されました。中道会員から、実際の写真が披露されました。

その後、ヘレンケラーが触れたという灯籠の前を通りました（写真5）。

ヘレンケラーは、昭和12年、昭和23年、昭和30年の3回、来日したそうです。

厳島神社の入り口の灯籠に設置しているカラスの像（弥山神鴉）の説明があり、神の使いであること、「七浦巡り」の神事「御鳥喰式」でカラスが森から出てきて、団子を食べるという不思議な行事の説明がありました。また、鏡池について説明がありました。「鏡池秋月」は八景の一つです。この池の水面に秋の月が映り、玉垣内の草むらから虫達の鳴き声が聴こえてくる。このような秋の鏡池が八景に選定されました。秋の観察会で案内することを参加者に伝えていました。

etto 宮島交流館でトイレ休憩し、塔の岡を通り、誓真大徳頌徳碑で休憩し、最後に八景の一つである「谷原麋鹿」へと進みます。ちょうど鹿が2頭いました。「中国の人が八景を決めたのですが、日本で先に決めた近江などに負けてはられないということで、動物にちなんだ所はないかと探し、宮島なら鹿がいいということで、ここが選ばれました。」と中道会員から説明がありました。秋の静かなときに鹿の鳴く声がよく響いて、よけい静けさを感じるそうです。増田会員がスマホから鹿の鳴き声を流して雰囲気を感じることができました（写真6）。



写真 6 谷原でシカの説明 (増田会員)

最後にみんなで記念写真を撮り、参加者にアンケートを記入していただき終了しました (写真 7)。参加者からは、秋の観察会にも参加したいと案内を希望される方が多かったです。

参考 (中道会員著『足で知る宮島学シリーズ 3』)



集合写真

(文 : 元広 山本(昌) 写真 : 穂井田 山本(昌))

◇アンケート結果

【質問】

- ① 参加したきっかけ
- ② 行事の感想
- ③ 観察会の時間帯
- ④ 意見・要望等

- ・ (80 代男性)
- ① 歴史が知りたい
- ② まったく知らない点が理解できた よく勉強されていて楽しい
- ③ よい スタート時間が早すぎる
- ④ 是非とも継続してください

- ・ (80 代男性)

- ① 歴史
- ② 自分の知らなかった事が多々あった 配布テキストの内容は出来ればもっと詳しい方が良かった
- ③ 良い

- ・ (80 代女性)

- ① 自然、宮島の花植物
- ② 良かったです 一生懸命でした
- ③ できれば昼まで

- ・ (70 代男性)

- ① 宮島について各ジャンルで知りたいので
- ③ よい

・ (70代男性)

- ① 歴史に興味があるから
- ② 宮島について今迄知らなかった事の説明が多くあり良かったです 配布テキストの内容は出来ればもっと詳しい方が良かった
- ③ よい

・ (70代男性)

- ① 体を動かしたい
- ② 参考になりました 大変勉強されていて感心しました
- ③ できれば昼まで
- ④ また参加したいです

・ (70代男性)

- ① 宮島について
- ② ガイドが良かった
- ③ よい

・ (70代女性)

- ① 宮島の歴史
- ③ よい

・ (70代女性)

- ① 良かったです
- ② よい
- ④ 秋には参加させてください

・ (70代女性)

- ① 自然や歴史に興味がある 体を動かしたい
- ② 説明がユニークだった
- ③ できれば昼まで
- ④ 行動中、他観光客のジャマにならない様も少し気にしても良いかな

・ (70代女性)

- ① 巖島の歴史にふれたいと思いました
- ② 講師の方がくわしくわかりやすく、ていねいに案内して下さい感謝です
- ③ できれば昼まで 体力的に

・ (60代男性)

- ① 宮島の自然や歴史に興味がある
- ③ よい

・ (60代男性)

- ① 宮島 (自然や歴史など) に興味があるので

② 八景というテーマが良かったと思います 語り口が聞きやすかったです

③ よい

④ 通常のガイドブックにはない内容で興味深かったです

・ (60代男性)

- ① 宮島に興味がある
- ② 良かった
- ③ できれば昼まで (待ち時間が結構あったのでもっと短くできるのでは)

・ (60代男性)

- ① 体を動かしたい
- ② 女性が「私、水を飲みます」等、水を飲むことをうながしていたのは良かったと思います
- ④ フルネームの名札で個人情報を流出させるのはいかがかと思えます

・ (60代女性)

- ① 宮島が好きでよく訪れるから
- ② 宮島の知らなかった所 (場所) やいきさつがわかった 楽しい案内でした
- ③ できれば昼まで

・ (60代女性)

- ① 自然
- ③ できれば昼まで

・ (60代女性)

- ① 宮島の自然、歴史に興味がある
- ④ 分かりやすく勉強になった
- ③ できれば昼まで

・ (60代女性)

- ① 歴史に興味がある
- ② よかった。普段歩かないところを歩きおもしろかったです わかりやすくお話していただきました
- ⑤ よい 集合時間、観察時間もちょうどよかった
- ⑥ 植物、野鳥について聞いてみたいです

・ (50代男性)

- ③ よい

樹木名板維持管理作業

日時：6月15日（土）9:00～11:30

天候：晴れ

行事推進員：村上（慎） 山本（加）

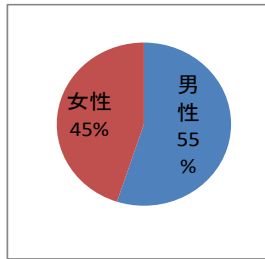
参加者：青木 岩崎 上杉（裕）上杉（幸）

大西 小川 折出 熊埜御堂 河野

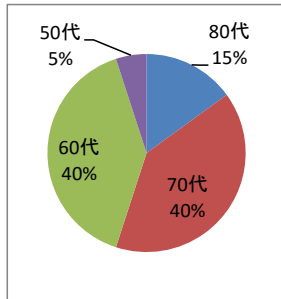
末原 兎谷 長村 畑野 穂井田 舛田

三戸 村上（慎） 山本（加）

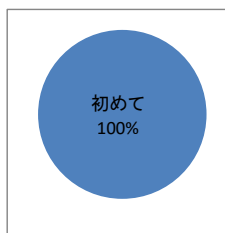
山本（昌） 吉賀 （以上20名）



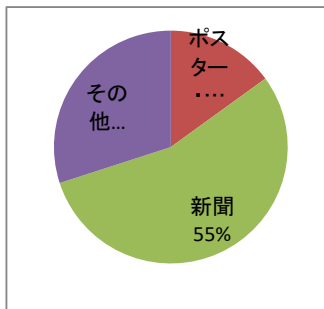
参加者の性別



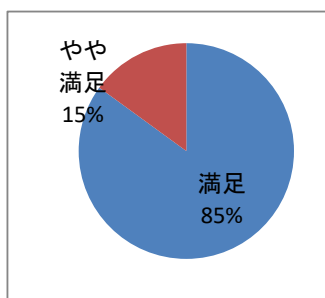
参加者の年代



観察会参加回数



行事を知ったのは



行事の感想

(まとめ 舛田)

2日前の天気予報では降水確率は60%でしたが、梅雨入りの遅れから晴天となりました。今年は「異常気象か!」と思うような最高気温30℃以上の真夏日が続き、平年6日ごろに入る梅雨に「まだか!!」とひとりごちてしまいました。（ちなみに、中国地方は平年より16日、昨年より24日遅い6月22日に梅雨入りしたとみられます）

今年の参加者は20名（令和4年：15名、令和5年：14名）と多く、新会員4名の参加を有難く思いました。

山村茶屋がある藤の棚公園をゴールとし、宮島棧橋スタートでうぐいす歩道担当の東班（11名、リーダー：舛田会員）と大元公園スタートであせび歩道およびもみじ歩道担当の西班（9名、リーダー：山本（昌）会員）に分かれ作業を開始しました。

この作業の目的は、現在取り付けてある「樹木名板（科名と名称を記載）」が、

- ・紛失、脱落していないか？
- ・追加、撤去の必要はないか？
- ・汚れていないか？
- ・取付用針金の締め付け過ぎはないか？

等を、配置図と一覧表を基に確認をしていきました。昨年の作業から1年しか経過していないものの、枯死したものがあることに驚きました。例年、脚立は東班のみ使用していましたが、西班側も高所に取り付けられた名板があるため、「来年は脚立が必要だね。」との意見がありました。

作業は、東班は「イズセンリョウ」および「オガタマノキ」に、西班は「カヤ」、「テイカカズラ」、「ムクノキ」および「オオモ

「ミジ」に樹木名板の取付・撤去等を、手の届く全ての名板に水拭き清掃および針金の締め付け具合の確認を行いました。

日陰が多いため高温ではありましたが、意外と快適に作業が行え、予定より若干早く作業を終了することができました。

コロナ過の終息で連日多くの観光客が来島しています。一人でも多く我々が作業をした歩道を歩いていただき、宮島の樹木に関心を持っていただきたいと思います。



作業風景（東側班）



作業風景（西側班）



作業風景（東側班）



作業風景（西側班）



集合写真

(文：村上（慎） 写真：河野 穂井田)

環境省研修会(潮汐・潮流)

テーマは会員待望の^{ちょうせき}潮汐や海の情報・安全

日時：6月29日（土）9:30～11:45

天候：晴れ

行事推進員：松尾

場所：etto 宮島交流館

出席者：青木 麻生 伊藤 岩崎 上杉(裕)
上杉(幸) 大西 大林 小川 折出
河野 佐藤 末原 千日 種本 豊原
中丸 中道 畑野 穂井田 増田 舩田
松尾 松田 三戸 村上(慎) 山本(昌)
以上 27 名

環境省：内山自然保護官 大高下 AR

講師：海上保安庁第六管区海上保安本部

新庄健之海洋調査官

平山将史課長補佐

雪松俊介安全対策調整官

自然を形づくったり、活動上理解が重要な潮汐や潮流、海の様々な情報を得る方法、海の安全や事故防止について、ご講演いただきました。

各内容について、日頃より、各内容を担当している海上保安庁の方から、宮島や瀬戸内海の主要ポイントの実例やデータを使いながら学ぶ、またとない機会となりました。

・潮汐・潮流

潮汐のおこる仕組みや潮汐表などで目にする用語について、大鳥居を撮影した写真やグラフ、動画になっている天体の模式図等を駆使して、高度な内容を分かりやすく解説していただき、潮流についても、瀬戸内海各地の比較や船の航行を交えた興味深い内容でした。

・海のデータ図書館「海しる」等の海洋情報
海上保安庁以外の情報も含めて、だれもが豊富なデータを利用できる海洋状況表示システム「海しる」を中心に、海に関するデータを利用する方法を具体的に示していただきました。データを取り出すだけでなく、だれでも地図上に重ねたり加工したりする方法を知ることができました。

・海における事故等について

海の事故というと、船の事故をイメージしますが、歩行者や車が海岸で転落することがかなり多いデータに驚きました。自動車が停止するのと違い、海上で船等が停止すれば、命の危険に直結しかねず、日常の点検・整備が不可欠な点は考えさせられました。

・質疑応答 ほか

講演内容についての質問だけでなく「海図」や「緊急通報用電話番号 118 番」等、多岐にわたる質問やボランティアから、漁具のごみや大鳥居周辺等でのマナーについての活発な意見等がありました。



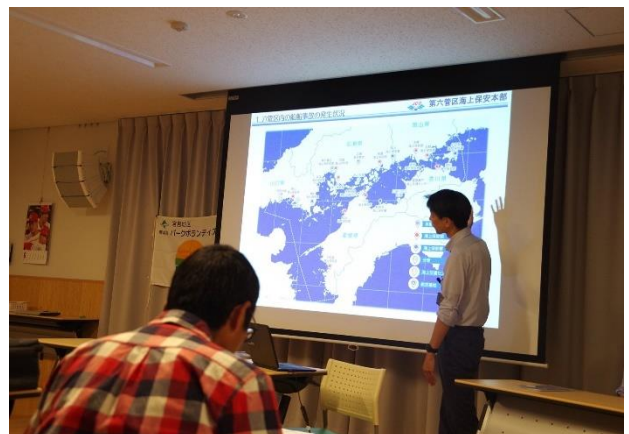
講習風景（潮汐・潮流について）



講習風景（「海しる」等の海洋情報について）



講師の先生



講習風景（海における事故等について）

（ 文：松尾 写真：河野 ）

ミヤジマトンボ生息湿地

海岸清掃作業

日 時：7月6日(土) 9:30～12:30

場 所：宮島島内
(ミヤジマトンボ生息湿地)

天 候：晴天(猛暑)

行事推進員：長村 森 吉賀

参加者：青木 岩崎 大西 大林 小川 恩田
熊埜御堂 河野 末原 兎谷 中丸
畑野 穂井田 松田 村上(慎)
森 山本(昌) 吉賀 18名

環境省：内山自然保護官

昨年実施の予定が雨で流れ、3年ぶりの清掃作業でした。前回、暑い中での山道歩きがあり、体調を崩された方もおられたので今回は、船で現地まで行くこととなりました。

この日は、最高気温 35℃が予測されて、日差しはきついものがありました。風があり、軽作業で午前中に終わったため、思いのほか厳しい状況にはなりません。

9時半に塩屋漁港に集合し、2隻の船に分乗して生息地の浜に向かいました。海の上からの景色は陸からとは違ったものがあり、宮島の山々や経小屋山も空と溶け合い澄んだ綺麗なものでした。



塩屋漁港から乗船し、宮島に向かう

生息地に着くと、内山保護官と松田会員からミヤジマトンボの説明があり、その後、生息湿地の柵の周りや砂浜の清掃と観察を行いました。生息湿地のヒトモトススキの茂みは

以前に比べるとずいぶん広がっており、トンボは数多く飛んでいて、近くで多く見ることができました。しかし、帰る直前の昼前には姿が見えなくなり、どこかに隠れたようです。



松田会員によるミヤジマトンボの説明



生息湿地周りの清掃

昼食の前に松田会員から今日の観察の報告と質疑応答がありました。トンボ調査のために、羽に番号が「90」と書かれたものを見たので、番号の書かれていない個体を合わせると相当数いるだろう。また、トンボの成虫としての寿命は1箇月くらいで、成長過程のものもいるので、まだまだこれからも多く飛ぶだろうとの事でした。



ミヤジマトンボ



羽に番号が書かれているミヤジマトンボ



帰りは、近くの岩場まで歩いて船に乗り、無事に塩屋漁港に帰りつきました。参加された皆様、暑い中、お疲れさまでした。



【生息地の浜での集合写真】

(文：森 写真：河野 穂井田)

厳島神社前海浜清掃作業

備すべきことは、お茶を持ち運ぶ袋と、日焼け止めです。

日時：7月6日(土) 13:00～15:00

天候：晴れ (気温 35℃)

行事推進委員：大林 種本 長村

参加者：青木 岩崎 大西 大林 折出 恩田
熊埜御堂 河野 末原 豊原 中丸
長村 畑野 穂井田 森 以上 15 名



清掃作業 (御座船前)

集合は、13時、タクシー乗り場前です。

この掃除に参加するのは初めてです。

神社入り口まで行き、神社の人 5, 6 人と合流して挨拶がありました。掃除道具は、鉄の熊手と鉄のガンゼキです。私はガンゼキにしました。長靴に履き替えて、荷物は倉庫の中にしまいました。お茶を 1 人 1 本もらいました。お茶入れのことを考えてなかったのでズボンのポケットとシャツのポケットに押し込みました。



清掃作業

いよいよ浜に降りて開始です。鳥居の向こうまで潮が引いています。アオサが砂の上に薄く広がっています。そして大量のアオサが、川にそって堆積しています。ガンゼキと熊手の人がそれを集めて小山にして、一輪車の人が来たら熊手の人がすくって載せていきます。ガンゼキを動かすとすぐに小山ができます。よく集まるので、なんか自分が海仕事のプロになったような気がします。能舞台の方にも川があって、これまた驚くほどたくさんのおアサが層をなしていました。一輪車がすぐいっぱいになります。トラクターショベルも一台あって活躍しています。



清掃作業

朝の雨が嘘のようにじりじりのカンカン照りで、軍手の中の手が汗の湯につかっているようです。祭のために、何百年か前も誰かがこうして作業していて、続いてきたその流れの中の一人だと思いました。

神社の回廊周りは、おおむねきれいになったと思います。集まったごみの量は 1 トンぐらいだそうです。道具を水で洗って返し、神社でお祓い (厳島神社のご厚意で、本殿前でお祓いを受け、会員を代表して大林会員が玉串奉納) を受けて終わりました。



清掃作業

腕が筋肉痛になるかと思ったけど、それよりも日焼けがきつくてこたえました。次回準



ゴミの収集



玉串奉納



集合写真

(文 : 長村 写真 : 河野)

◇編集後記◇

今回も皆様の協力で配信することができました。感謝！

7月、京都の祇園祭から帰った直後にコロナに罹患。初めてのコロナはワクチン接種の1.5倍くらいきつかったが、4日ほどで回復。

先日、友達に誘われて、周南市鹿野町にある「山野草のエキ」へ。ここは、故伊藤さんが75歳から17年かけて28,000㎡の山を一人で鋤を入れ、350種類を植栽。貴重な山野草が身近にみられる生きた図鑑のような森。92歳で亡くなられた後は保存会の方たちが月2回維持管理活動をしています。

訪問時は、キレンゲショウマ、サギソウなど十数種類を1時間かけて観賞しました。75歳から事をなした伊藤さんへ金メダル！
(麻生)

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455